

歩く冬みちを

札幌冬みちガイド



札幌の冬みちの歩き方や服装など、冬の札幌を楽しく観光するために役立つ情報を紹介！

札幌の冬。

雪の多い札幌では、さまざまな冬みちがあるのを知っていますか？冬みちの中には、滑って転びやすい道もあり、札幌に住む私達も、滑りやすい道や場所には注意して歩いています。このパンフレットでは、札幌の人の冬みちの歩き方や服装、冬みちで転ばないためのコツなどを紹介しています。是非、参考にしてみてください。

冬を楽しく過ごすためのお手伝いになれば幸いです。

生まれも育ちも札幌のぼくが紹介します！



こんな人が転びやすいよ。

1 急いでいる人

急いでいると、足元への注意力が散漫になり、転びやすくなります。



2 両手がふさがっている人

荷物などで、両手がふさがっていると、反射的に身体を守れないため、ケガにつながる可能性があります。



3 冬みちに合わない靴をはいている人

冬みち用の靴以外は大変滑りやすく、転ぶ確率も高くなります。また、防寒を怠ると寒さで体がこわばり、動きも鈍ります。



4 ポケットに手を入れて歩く人

ポケットに手を入れていると、急な動きに反応できず、ケガにつながります。



5 何かに気を取られている人

携帯電話での会話に夢中になるなど、何かに気を取られていると足もとへの注意力が散漫になり転びやすくなります。



6 お酒を飲んでいる人

足もとへの注意力が散漫になり、動きも鈍ります。転んでケガをする原因にもなります。



服装は万全にしよう。

● 帽子

衝撃を吸収する厚めの毛糸の帽子がおすすめです。

● マフラー

屋内外での温度調節にとっても便利。厚地で長め、幅も広いものを選びましょう。

● セーター

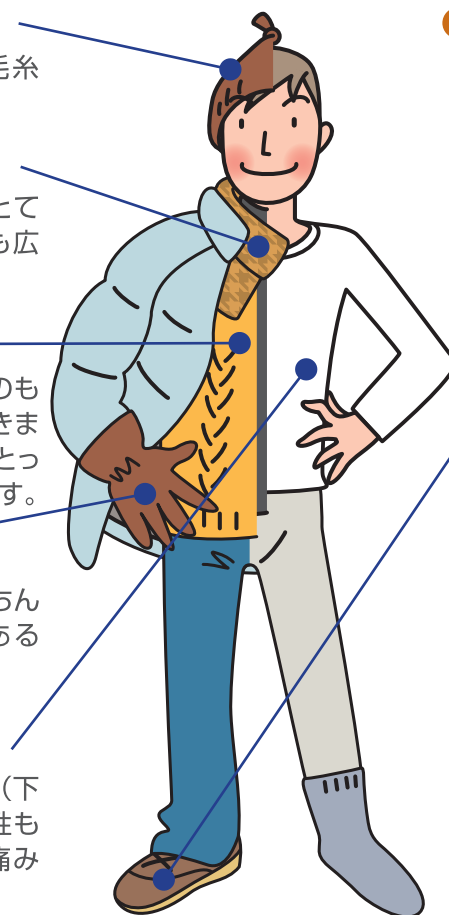
2枚で重ね着できる薄手のもののほうが温度調節もできます。また、厚着しすぎると、とっさの動きがしづらくなります。

● 手袋

厚めの素材で、手首をきちんとおおう十分な長さのあるものを選びましょう。

● 下着

肌着や七分丈のパンツ(下着)を重ねてはけば保温性も高く、腰を打ったときに痛みを軽減できます。



● 冬みち用の靴・靴用アタッチメント

出来るだけ冬みち用の靴を履きましょう。冬みち用の靴が準備できない場合は、自分の靴にそのまま装着できる、着脱可能な靴用のアタッチメントを利用しましょう。ゴムバンドやマジックテープなどで靴底に固定するだけなので簡単に装着できます。

【つま先型】

つま先部分をおおうタイプ。かかと面が狭い婦人靴などに適しています。



【全面型】

足裏全面をおおうタイプ。靴底が平らで広いスニーカーや、紳士靴に適しています。



※冬みち用の滑りにくい靴は、札幌市内の靴販売店などでは販売されています。詳しくは、靴販売店へお問い合わせください。靴用アタッチメントは、新千歳空港や札幌市内の靴販売店、コンビニエンスストア等で販売されています。



雪国の人たちは、歩き方を工夫しているよ。

1 路面を良く見て歩く

路面が乾いているように見えても、薄く氷がはっていたり、新しく降り積もった雪でつるつる路面が隠れている場合があるので、いつも注意して歩きます。

ひと口メモ 滑らないように見えても、注意して歩こう！夜は特に注意しよう！



2 靴の裏全体を路面につけて歩く

つるつる路面では、重心をやや前におき、できるだけ足の裏全体を路面につける気持ちで歩きます。



3 小さな歩幅でそろそろ歩く

見るからに滑りそうな道や、凍った路面の上にさっと雪が積ったような所では、歩幅を小さくしてそろそろ歩きます。

ひと口メモ 特に、滑りやすい交差点や横断歩道を歩く時にすすめ。



4 急がず、焦らず、余裕を持って歩く

いくら歩き方を理解したつもりでも、急いでいる時は忘れがちに。時間に余裕を持って、急がず、焦らず歩くことが基本です。

ひと口メモ 持ち物がある場合は、バッグよりも両手が自由になるリュックがおすすめ。



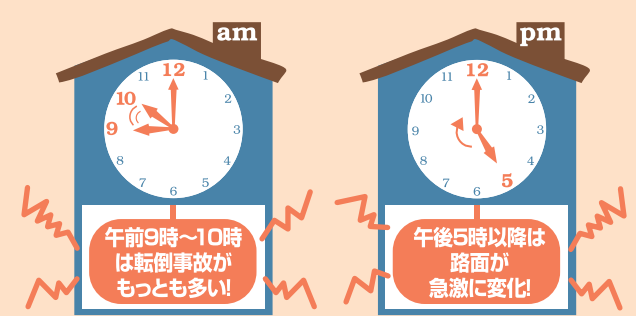
札幌発！冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイト

転ばない
ゴツおしえ
ます。
tsurutsuru.jp

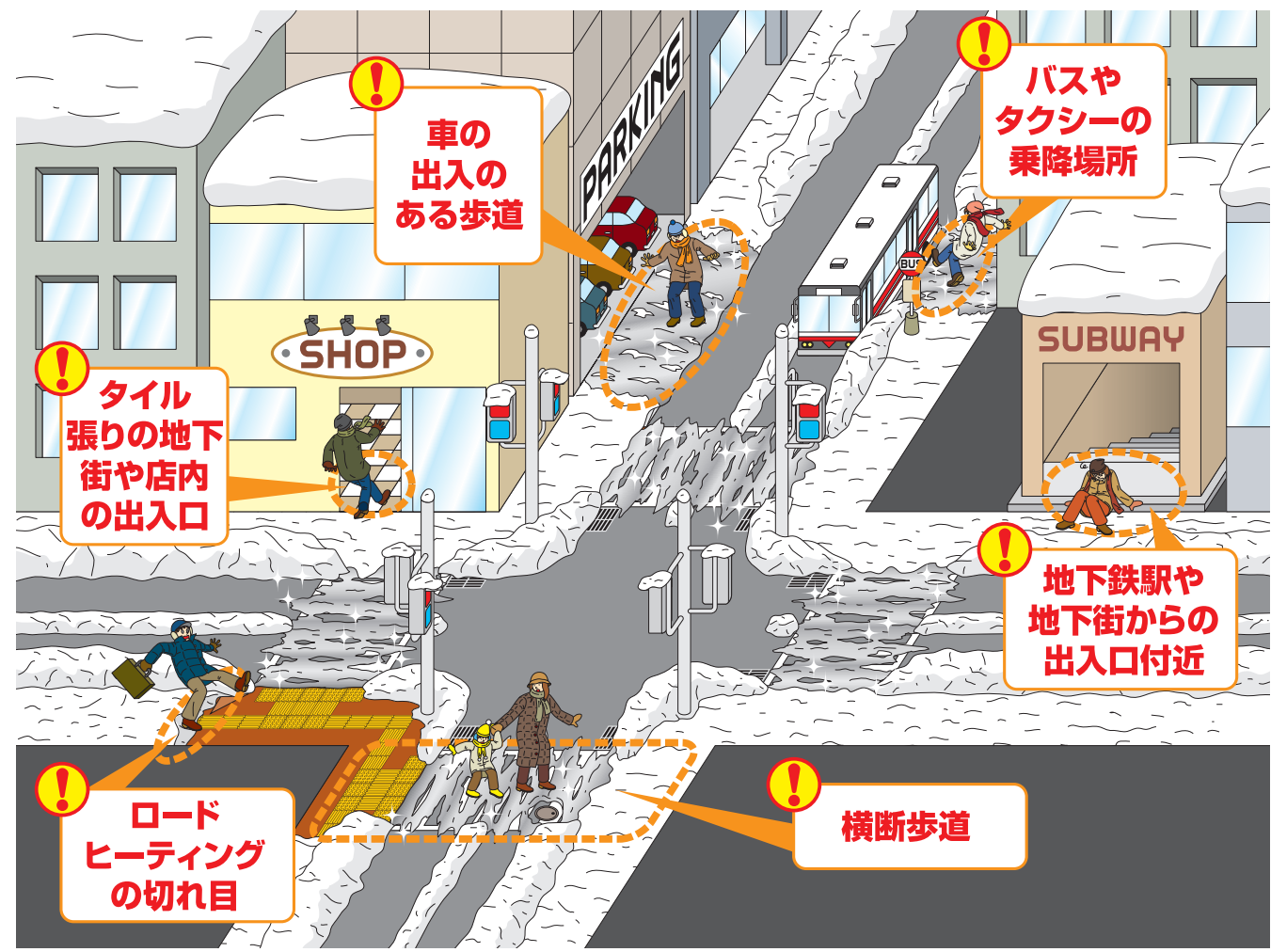


つるつる路面ができる条件を知っておこう。

- 厳しい冷え込みの時よりも、-2℃前後の時に つるつる路面ができやすくなります。
- 横断歩道などでは、冬みちの表面が車のエンジンの排熱で融け、またタイヤで磨かれて滑りやすくなります。
- 朝9時～10時の時間帯や急激に冷え込む夕方5時以降の時間帯は、転倒事故が多いので注意が必要です。



僕たちも、滑りやすい場所には気を付けているんだ。





「横断歩道」
渡りはじめと終わり部分は、凸凹や段差があり滑りやすくなっています。また、白線の上も薄い氷の膜ができやすいので要注意です。



「タイル張りの地下街や建物」
靴底や靴のアタッチメントに、雪や氷が付いたままで地下街や建物に入ると滑りやすくなるので要注意です。



「ロードヒーティングなどの切れ目」
ヒーティング区間のある所とない所や、地下からの出入り口付近では段差が発生しやすく、滑りやすい状態になります。



「バスやタクシーの乗り場」
バスやタクシーの乗降場所は、人や車で雪が踏み固められ滑りやすくなります。

実は多い! 冬みちでの転倒 ～ 札幌市の転倒事故の現状 ～

札幌市内では、冬みちでの転倒による救急搬送が多発しており、平成24年度には冬期の救急搬送者が1300人を上回りました。特に転倒事故が多発する日があり、平成26年12月21日には163人、翌22日には84名が転倒により救急搬送されました。写真は12月21日の歩道の路面状況です。このような非常に滑りやすい路面の日はもちろん、日頃から、冬みちで転ばないためのコツを身につけ、転んでもケガをしにくい服装で歩くよう心がけましょう。



砂箱(すな)を 利用しよう!

札幌の中心部を歩くとよく目にするこの箱。これは、冬みちを滑りにくくするための砂が入った「砂箱」です。大きな交差点などに設置され、誰でも自由に利用できます。札幌観光の思い出に「砂まき」を体験してみては？



ペットボトルタイプ



砂袋タイプ

使用方法

滑るとおもったところや危ないと思ったところを見つけたら、まいてみてね

- ①「砂袋」を取り出す。ココから
- ②砂をまく。
- ③空袋をココへ入れる。



★急ぐ時は地下街を利用しよう。